

子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2023 刊行 記者説明会**4月4日(木) 14:00 より会場&オンライン開催**

- **進む運動部活動の地域移行。活動実態と生徒のニーズ、健康面から考える**
- **青少年の生活行動とメンタルヘルスの関連・改善アプローチ**
- **4~11歳の最新の運動・スポーツ実施状況、種目別の変化 など**

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：渡邊一利 以下：SSF）は、2年ごとにわが国の幼児から青少年までのスポーツの「実施頻度」や「実施時間」、「運動強度」などを調査し、現状を明らかにしてきました。最新の調査結果をまとめた「子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2023」を2024年3月29日に刊行いたします。

近年、少子化、デジタル化、さらにはコロナ禍などで、子ども・青少年を取り巻く環境は大きく変化し、運動不足や生活習慣、メンタルヘルスの問題などが深刻化しています。そして、長年日本の青少年のスポーツをささえてきた「学校運動部活動」が**地域移行**という大きな局面を迎えています。

記者説明会では、上記の課題解決に向けて最新の子ども・青少年の運動・スポーツ実施状況に加え、メンタルヘルスの課題、生徒のニーズや健康面を踏まえた運動部活動の地域移行に向けた示唆など、子ども・青少年のスポーツ環境の現状と今後についてお伝えいたします。お申込みいただきましたら、後日動画によるアーカイブ配信を行いますので、是非ご参加ください。

【テーマ】子ども・青少年のスポーツライフと健康、運動部活動の地域移行のあり方

- 【日時】** 2024年4月4日(木) 14:00~15:00 (13:30開場)
※申込締切：2024年4月3日(水) 12:00 申込方法は次ページ参照
- 【開催方式】** 会場参加 もしくは オンライン (Zoom)
- 【会場】** 日本財団ビル 2階 大会議室
- 【内容】**
- ①主な調査結果
 - 運動・スポーツ実施状況**
 - ・4~11歳：女子の非実施・低頻度群が増加、実施種目に変化
 - 健康・メンタルヘルス**
 - ・4~11歳、12~21歳の健康の自己評価は高い
 - ・生活行動（身体活動、スクリーンタイム、睡眠）が及ぼすメンタルヘルスの影響
 - ・メンタルヘルス改善に必要なアプローチ
 - 運動部活動**
 - ・中学校期・高校期ともに、2019年調査から運動部活動への加入率は減少傾向
 - ・保護者の地域移行に対する認知度は3割程度にとどまる
 - ②分析結果
 - 青少年におけるメンタルヘルスを改善するための生活行動とは？
 - 学校運動部活動の活動実態と本人の希望との差からみる生徒のニーズ
 - 所属クラブのタイプ別にみた青少年の健康に関わる認識や習慣と地域移行
- 【発表者】** 高峰 修 (SSF スポーツライフ調査委員会 委員長/明治大学 政治経済学部 教授)
城所 哲宏 (SSF スポーツライフ調査委員会 委員/日本体育大学 体育学部 准教授)
鈴木 貴大 (SSF スポーツ政策研究所 政策オフィサー)

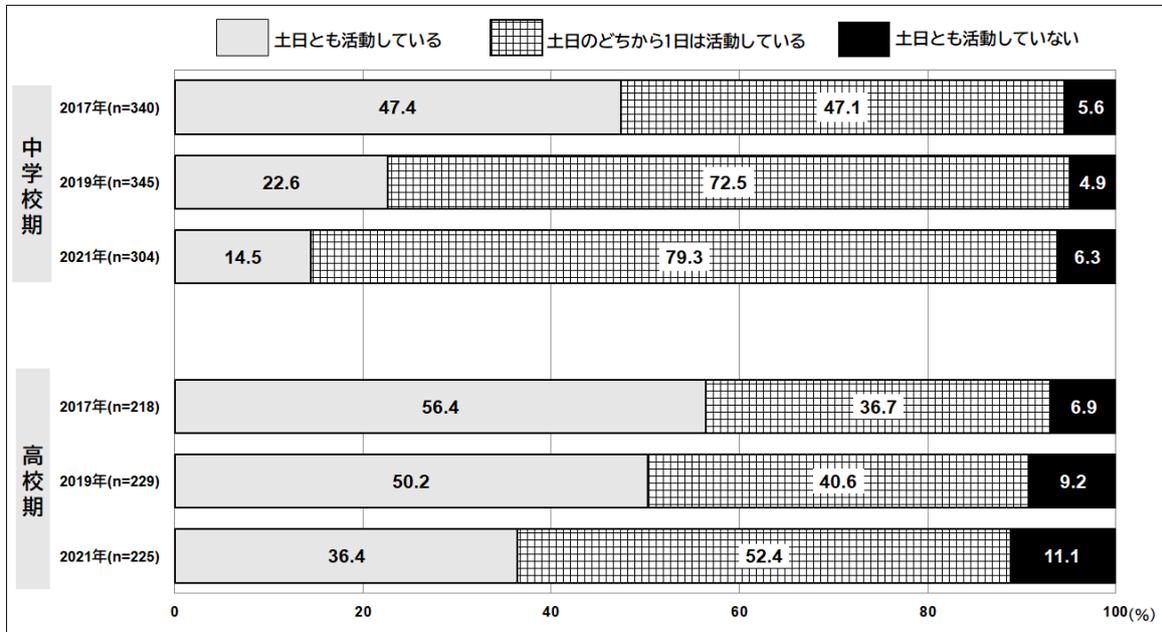
■参照：子ども・青少年スポーツライフ・データ 2021

図表：過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目の年次推移（複数回答）

2017年 (n=1,542)			2019年 (n=1,491)			2021年 (n=1,449)		
順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)
1	おにごっこ	47.3	1	おにごっこ	52.6	1	おにごっこ	57.3
2	水泳（スイミング）	34.2	2	水泳（スイミング）	34.1	2	自転車あそび	30.3
3	自転車あそび	30.4	3	ドッジボール	29.0	3	なわとび（長なわとび含）	30.2
	ドッジボール	30.4	4	自転車あそび	27.6	4	ドッジボール	29.2
5	ぶらんこ	25.4	5	サッカー	26.0	5	水泳（スイミング）	27.3
6	サッカー	24.3	6	ぶらんこ	25.7	6	ぶらんこ	26.8
7	なわとび（長なわとび含）	22.2	7	なわとび（長なわとび含）	24.4	7	サッカー	22.5
8	かくれんぼ	16.6	8	かけっこ	17.9	8	鉄棒	21.3
9	鉄棒	16.2	9	かくれんぼ	17.2		かくれんぼ	19.8
10	かけっこ	13.7	10	鉄棒	17.0	10	かけっこ	17.1

4～11歳の、過去1年間によく行った運動・スポーツ種目の実施率上位10種目について、2017～2021年の推移を示した。2021年は1位「おにごっこ」57.3%（前回調査比4.7ポイント増）、2位「自転車あそび」30.3%（前回調査比2.7ポイント増）、3位「なわとび」30.2%（前回調査比5.8ポイント増）と、運動あそび種目が上位を占めた。5位の「水泳（スイミング）」27.3%（前回調査比6.8ポイント減）は前回2位から順位を落とした。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、プールを使えない時期があったことや、人との身体接触が少ない種目の実施が増加したと考えられる。

図表：運動部活動の土日の活動状況の年次推移（学校期別）



中学校期で2021年をみると、「土日も活動している」が14.5%（2017年調査比32.9ポイント減）、「土日のどちらか1日は活動している」が79.3%（2017年調査比32.2ポイント増）、「土日も活動していない」が6.3%（2017年調査比0.7ポイント増）であった。

高校期では、2021年は「土日も活動している」が36.4%（2017年調査比20.0ポイント減）、「土日のどちらか1日は活動している」が52.4%（2017年調査比15.7ポイント増）、「土日も活動していない」が11.1%（2017年調査比4.2ポイント増）となっている。